

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
<b>合計</b>		<b>20</b>

事業所番号	1495200220
法人名	(株)アイ・ディ・エス
事業所名	バナナ園武蔵小杉
訪問調査日	平成28年9月12日
評価確定日	平成28年10月14日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 28年度

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200220	事業の開始年月日	平成25年6月1日
		指定年月日	平成25年6月1日
法人名	(株)アイ・ディ・エス		
事業所名	バナナ園武蔵小杉		
所在地	( 211-0022 ) 川崎市中原区荻宿8-54		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	18名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年8月26日	評価結果 市町村受理日	平成28年10月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>*地域密着 花見、夏祭り、秋祭り、芋煮会、町会行事の参加、小学校・保育園との交流、ボランティアの方との交流 自分の居場所のある安心できる生活 料理、掃除、洗濯、生活の中で役割を持ち、生き生きとした生活を送る。 スタッフとご家族が共に協力してご利用者様を支えるという姿勢。</p> <p style="text-align: right;">*役割、 *家族の協力</p>
--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成28年9月12日	評価機関 評価決定日	平成28年10月14日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①この事業所の経営母体は(株)アイ・ディ・エスです。社会福祉法人ばなな会と共に川崎市を中心にグループホームを10ヶ所運営しており、2016年4月に横浜市に「バナナ園横浜山手」を開設しました。同法人は古民家を改修したタイプの事業所から近代的な建物まで、様々な利用者のニーズに合った事業所を展開しています。「バナナ園武蔵小杉」は、JR南武線「平間駅」、JR、東急東横線「武蔵小杉駅」から徒歩15分程の住宅街に位置しています。小学校も近く登下校中の子供の声を聞くことができるので、朝夕時の登下校の時間は利用者も楽しみにしています。外観はピンク色の壁と赤い扉がオシャレな事業所です。</p> <p>②法人の理念は「明るく・楽しく・自由に」と共に利用者の自主性を重んじた《自由の10原則》を掲げ、玄関・事務所等の目につく所に掲示し、実現に向けて取り組んでいます。「認知症だって夢は叶えられる」との思いの下、全職員で共有して取り組んでいます。</p> <p>③法人としては、今年度から新卒の新入社員を採用し、1年間の研修や現場実習を経て1年後に配属先を決定するシステムを取っています。また、希望や推薦で研修の一環として海外の介護施設の見学に行き学ぶ機会も設けています。</p> <p>④管理者は、同法人の他事業所から異動してきたばかりですが、前任者の築き上げた地域との繋がりを継承しつつ、より地域に開かれ、根づいた事業所を目指し、地域向けの「認知症」の講習会の講師を務めたり、来訪者が利用者や職員と気軽に挨拶を交わし、助け合い支え合える環境作りにも力を投入して取り組んでいます。</p>
--

#### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	バナナ園武蔵小杉
ユニット名	1 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
だ						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気、地域と繋がっているという安心感の中で、明るく、楽しく、自由に暮らす。地域の方にも積極的にあいさつをし、利用者様が中心の生活であり、スタッフは出来ないことをサポートするという役割を徹底している。	法人の理念「明るく、楽しく、自由に」と《自由の10原則》を事務所・玄関に掲示し、朝礼で具体例を交えながら理念を共有しています。利用者の出来る事・出来ない事を把握し、職員は出来ない事のみをサポートするという、自立支援への手助けの役割を徹底しています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の交流会に積極的に参加しています。地域盆踊りの参加、お神輿の見学も行いました。運営推進会議の参加も積極的に参加してくれている。月2回、地域の方が歌のボランティアに来てくれている。	近隣や地域との交流には、力をいれています。町会の盆踊りの練習を事業所でもらい当日も見学に行きました。中学校の体験授業では4人の生徒の受け入れ、恒例となった近隣保育園との芋ほり会では、事業所の庭で多くの園児と収穫を楽しみました。また、歌のボランティアも月2回来ていただいています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議がきっかけとなり、地域包括センターの方と連携して近所の小学校の授業で認知症の方を理解し、交流する福祉体験を行った。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でご家族様から、もっとボランティアの方を呼んでほしいと要望が上がり、地域の方がその後ボランティアに来てくれるようになった。	運営推進会議は2か月に1回、町会長・地域包括支援センター・民生委員・家族・利用者・事業所関係者の出席で開催し、現状の報告等を行っています。家族から、ボランティアの来所を増やしてほしいと要望が挙がりましたが、家族からの紹介で歌のグループやパステルアート講師の来訪に繋がりました。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中原区GH連絡会議に川崎市、中原区の職員の方がいらっしゃるので積極的に参加、協力するようにしている。	2ヶ月に1回社協主催で開催される、中原区GH連絡会議には、区の職員や地域包括支援センターの出席もあり、積極的に参加しています。市からの研修資料は事務所に置き、希望に応じて職員が自由に参加出来る体制を取っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、入口ドアは施錠しています。日常無意識におこなっていることが、実は身体拘束にあたるという認識はまだまだ足りていない。	身体拘束は、年間研修計画に組み込み、正しい理解と知識を深めています。言葉の使い方には特に注意し、家族のような信頼関係を築きながらも、強い口調で言う事の無いよう気を付けています。玄関・入り口ドアは施錠していますが、閉塞感を感じない様注意しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回勉強会を開き、防止に努めている。またスタッフがストレスをためないようによく話を聞くようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は講習などに参加しているが、職員に対しての勉強会はまだおこなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が立ち会い必ずおこなっています。ご家族様のお話をよく聞きご納得いただけるような対応、方法がないか丁寧に行うことを心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で行っている。ご家族様来園時は管理者が出来るだけ対応し意見や質問に答えられるようにしている。	管理者は、来訪者(配送業者も含め)が来た際には、必ず職員に紹介するようにすることで、管理者が不在の場合でも対応できるように配慮しています。頂いた意見や要望は、申し送りノートに記載する他、SNSでも情報を共有することで、漏れの無いように努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、申し送りの時に職員の意見提案は聞いています。管理者は職員と業務をおこなうこともありますので、日常的に話しやすい環境にある。定期的に個人面談を行っている。	ユニット会議は月1回行い、管理者も参加しています。職員からは活発に意見が出るので、職員の意見は業務に反映させるように検討しています。朝・夕の申し送り時にはその日に起きたことを話し合っています。管理者は日頃から職員と話しやすい関係を構築していますが、月1回個人面談を実施し、個別の相談にも乗っています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備については、休憩時間や給与について十分に整備できていません。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得等を進めています。内部の研修には全員参加し、外部研修についても希望者は参加できるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月1回、交流しています。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりとおこない、ご本人の表情やしぐさ、発言などに注意し、安心して過ごせるように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞き、共に支える協力者であることを伝え、信頼関係を築く事に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	硬縮があり歩行の継続が心配な方には、医療と連携し訪問マッサージを導入した。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意識はまだまだ低いですが、できることはなるべく一緒に行うことは心がけている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	おおむね信頼関係はできている。なかなか面会に来れないご家族様との交流はipadなどを使いおこなっている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週、教会に行っている方がいらっしゃいます。手紙や電話の取り次ぎの支援や、ご友人、ご家族来園時はゆっくり楽しい時間を過ごしてもらえるように支援している。	毎週、知人の迎いで教会に行っている方がいます。事業所のイベントのお知らせは、友人やボランティアの方にも送ることで、馴染の関係が途切れないように配慮しています。居室には電話やipadを持ち込んでいる方もおり、必要に応じて職員が手伝っていますが、自由に連絡を取り合えるように支援しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	足の悪い方の下膳を手伝って下さる利用者さまがいらっしゃったり、助け合いながら生活が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ事例はないが今後相談があればフォローしていきたい。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりが大切、思いが伝えられなくても、察する事が出来るような関係性を築けるように努めている。記録を通して、情報共有、職員の対応の振り返り、ご本人にとって生活の喜びはどこにあるのか、把握でき様に努力している。	思いや意向は、一緒にいると把握出来る事が多く、日々の関わりを大切にしています。その人の発言が心に基づいているものなのかを、見極めるよう心がけています。「出来ない人」として接する事の無い様、利用者の意向を第一に考え、支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅までアセスメントを取りに行ったり、関係サービス機関に情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中かで把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケア会議をおこなっている。モニタリングで振り返りを行い、再アセスメント。ご本人、家族の意向を反映させた介護計画書を作成するようにしている。	月に1回ユニット毎にケア会議を行い、基本的には6か月毎の見直し、必要時にはその都度見直しを行っています。居室担当制を設けており、ケア会議では居室担当者をメインに意見を出してもらい、ケアマネージャー・他職員・医療関係者の意見を参考にし、介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事だけではなく、その時の様子を書くことを意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パターンに捉われないようにとは思ってはいるが実際は十分な対応は出来ていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作業、保育園の園児の来訪、商店街での買い物などご利用者様のニーズに合わせた地域資源の活用ができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初診時にご家族様同席で、受診して頂く。その時に直接医師から今後の方針などを説明する。	初診時は家族同席で受診してもらい、安心に繋がるよう配慮しています。内科は月2回、精神科は月1回の往診があり、訪問歯科は週1回、全員の口腔ケアを行っています。訪問マッサージを受けている方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録の見直し、申し送りでの情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合は、必ず病棟看護師に日常の状況をできるだけ早く伝えるようにしている。退院の時にも状況把握の為に病院まで行き直接病棟看護師の方から話を聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用前には必ず説明している。実際その状況になるとご家族の意志は変化する時もあるということ念頭におき今後も対応していきたい。	入居時に「重度化した場合の指針」に基づき説明し、捺印を貰っていますが、その状況になると家族の意思は変化することもあることを念頭に置き、重度化した際は改めて家族の意向を確認しています。職員のメンタルケアは、本部で研修を行い、マニュアルも見やすい所に掲示し、対応できるように周知しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は研修に参加できていない為、今後は全職員に行えるように研修を予定するようになりたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練の実施。地域の協力にまではまだなっていないが、地域の防災訓練に参加し積極的に施設のアピールは行っている。避難時につける施設の名札を準備し、近隣の方の協力が得やすいようにしている。	年に2回、避難訓練を実施しています。地域の協力を得られるまでに現状は至っていませんが、今後協定を結んでいきたいと考えています。地域の防災訓練には職員が参加し、事業所のアピールを行っています。備蓄は、本部で管理しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理、接遇マナーについての研修を行っています。	接遇マナーは重要と考え、本部で研修を行い、本部の研修参加者が帰所後に事業所内の勉強会でフィードバックしています。管理者は個別にも面談を行い、話し合いの場を設けています。利用者一人ひとりの性格を見極め、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけています。		今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や着替えなど意識的に自己決定の機会を増やすように工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添った支援が出来るようになるにはスタッフがゆとりをもって働けりうように事業所運営をしなければと考えているが、不十分な時もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容は2カ月に1回程度、白髪染めも対応してくれる。ご家族には季節ごとの衣類の整理などもお願いしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時は、利用者様の希望を聞き、特別メニューにしたりしている。食事に関わる事はなるべく利用者様と一緒にを行うようにしている。食事は利用者様と一緒にすることを基本にしている。	食材は、配送サービスを利用していますが、誕生会・お月見・雛祭り等の行事の際は配送を止め、特別メニューにしています。配膳や盛り付けは、出来る方と一緒にやっています。たこ焼きパーティーや、バーベキュー、年2回は法人の会長が蕎麦打ちに来てくれご家族も一緒に楽しんでいます。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見目で食べない方も多いため、盛り付けや切り方を工夫している。水分も好みを把握し色々な種類をそろえている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問歯科が入っているため、口腔ケアの方法などもアドバイスして頂き行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけなどをおこなっている。	個々の排泄パターンを把握し、定時の声掛けをしています。自立に近い方が多いので、声掛け、見守りを中心に支援しています。夜間帯は、ポータブルトイレを使用している方もいますが、自分で起床し、トイレに行ける方も多くいます。医師の指示で、毎日、温めたタオルで清拭を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、水分、運動を心がけているが、それでも便秘の場合は、医師の指示で下剤の使用もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけご本人の希望にそうようになっている。	週2回は入浴できるよう、支援しています。夏場などは、シャワー浴で回数を増やしている方もいます。電動リフトシャワー浴の機械を8月に1階に導入し、様子を見ながら利用しています。入浴剤や菖蒲湯・ゆず湯等の季節のお風呂も楽しめるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に昼寝をしたり、夜間なかなか眠れない方には日中の活動量を増やしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の薬を一覧表にしたり、追加や変更になった新しい薬については目的と副作用がわかるように掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般、歌、散歩はお好きな方が多く、日々の楽しみになっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方の協力で夕方、盆踊りに出掛けたりしている。事業所の庭でお天気のいい日はベンチに座ってお茶を飲んだりして気分転換をしています。	天候の良い日には、日常的に近くの小川まで散歩に行ったり、商店街まで買い物に行ったりしています。地域の方の協力で、盆踊りに出かけたりもしています。今後、外出支援を積極的に行っていく予定です。家族と一緒に外出や旅行へ行く利用者もいます。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の商店街で、買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でご家族とお話したり、自由にしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を変えたり、臭いには特に注意し、こまめな換気や消臭剤を使用し施設独特の臭いがしないように気をつけている。	リビングは広く、自然の採光にあふれ明るさがあります。リビングは白を基調とて扉の色にダークブラウンを採用し、北欧の家具を取り入れ、デザイン性と清潔感が感じられる雰囲気になっています。掃除は箒・塵取り・拭き掃除等を利用者と共に行っています。法人共通に「清香水」を用いて、臭いにも配慮しています。廊下には大きな洋画が飾られ、リビングの壁には行事の写真が貼られ、話題作りにもなっています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く置き、ゆったりとくつろげるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具など持ち込んで頂き、できるだけ自宅に近い環境にしている。	居室には、白いクローゼットとエアコンが設置されています。本人や家族と相談しながら、冷蔵庫・テレビ・写真・電話、またパソコン等も持ち込んで、自宅に近い環境で過ごしてもらえよう、支援しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、家庭的な環境を心がけ、場所や位置をなるべく覚えてもらうようにし、過剰な標識をつけないようにしている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

バナナ園 武蔵小杉

作成日

平成28年9月12日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	事業所理念をしっかりと伝え、実践していく	ミーティングやケア会議での発信力を高める。	1年
2	18	利用者様中心の生活	利用者様が生き生きと暮らすグループホーム	意欲を引き出すような関わり。ニーズに合わせた支援。	1年
3	34	緊急時、事故発生時の対応	実践力を身につける	研修の開催	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	バナナ園武蔵小杉
ユニット名	2 F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
だ					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気、地域と繋がっているという安心感の中で、明るく、楽しく、自由に暮らす。地域の方にも積極的にあいさつをし、利用者様が中心の生活であり、スタッフは出来ないことをサポートするという役割を徹底している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の交流会に積極的に参加しています。地域盆踊りの参加、お神輿の見学も行いました。運営推進会議の参加も積極的に参加してくれている。月2回、地域の方が歌のボランティアに来てくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議がきっかけとなり、地域包括センターの方と連携して近所の小学校の授業で認知症の方を理解し、交流する福祉体験を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でご家族様から、もっとボランティアの方を呼んでほしいと要望が上がり、地域の方がその後ボランティアに来てくれるようになった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中原区GH連絡会議に川崎市、中原区の職員の方がいらっしゃるので積極的に参加、協力するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、入口ドアは施錠しています。日常無意識におこなっていることが、実は身体拘束にあたるという認識はまだまだ足りていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回勉強会を開き、防止に努めている。またスタッフがストレスをためないようによく話を聞くようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は講習などに参加しているが、職員に対しての勉強会はまだおこなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が立ち会い必ずおこなっています。ご家族様の話をよく聞きご納得いただけるような対応、方法がないか丁寧に行うことを心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で行っている。ご家族様来園時は管理者が出来るだけ対応し意見や質問に答えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、申し送りの時に職員の意見提案は聞いています。管理者は職員と業務をおこなうことでもありますので、日常的に話しやすい環境にある。定期的に個人面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備については、休憩時間や給与について十分に整備できていません。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得等を進めています。内部の研修には全員参加し、外部研修についても希望者は参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月1回、交流しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりとおこない、ご本人の表情やしぐさ、発言などに注意し、安心して過ごせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく聞き、共に支える協力者であることを伝え、信頼関係を築く事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	硬縮があり歩行の継続が心配な方には、医療と連携し訪問マッサージを導入した。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意識はまだまだ低いですが、できることはなるべく一緒に行うことは心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	おおむね信頼関係はできている。なかなか面会に来れないご家族様との交流はipadなどを使いおこなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週、教会に行っている方がいらっしゃいます。手紙や電話の取り次ぎの支援や、ご友人、ご家族来園時はゆっくり楽しい時間を過ごしてもらえるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	足の悪い方の下膳を手伝って下さる利用者さまがいらっしゃったり、助け合いながら生活が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ事例はないが今後相談があればフォローしていきたい。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりが大切、思いが伝えられなくても、察する事が出来るような関係性を築けるように努めている。記録を通して、情報共有、職員の対応の振り返り、ご本人にとって生活の喜びはどこにあるのか、把握でき様に努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅までアセスメントを取りに行ったり、関係サービス機関に情報提供をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中かで把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケア会議をおこなっている。モニタリングで振り返りを行い、再アセスメント。ご本人、家族の意向を反映させた介護計画書を作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事だけではなく、その時の様子を書くことを意識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パターンに捉われないようにとは思ってはいるが実際は十分な対応は出来ていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作業、保育園の園児の来訪、商店街での買い物などご利用者のニーズに合わせた地域資源の活用ができています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	初診時にご家族様同席で、受診して頂く。その時に直接医師から今後の方針などを説明する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録の見直し、申し送りでの情報を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合は、必ず病棟看護師に日常の状況をできるだけ早く伝えるようにしている。退院の時にも状況把握の為に病院まで行き直接病棟看護師の方から話を聞くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用前には必ず説明している。実際その状況になるとご家族の意志は変化する時もあるということを念頭におき今後も対応していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は研修に参加できていない為、今後は全職員に行えるように研修を予定するようになりたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練の実施。地域の協力にまではまだなっていないが、地域の防災訓練に参加し積極的に施設のアピールは行っている。避難時につける施設の名札を準備し、近隣の方の協力が得やすいようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理、接遇マナーについての研修を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や着替えなど意識的に自己決定の機会を増やすように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添った支援が出来るようになるにはスタッフがゆとりをもって働けりうように事業所運営をしなければと考えているが、不十分な時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容は2カ月に1回程度、白髪染めも対応してくれる。ご家族には季節ごとの衣類の整理などもお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時は、利用者様の希望を聞き、特別メニューにしたりしている。食事に関わる事はなるべく利用者様と一緒にを行うようにしている。食事は利用者様と一緒にすることを基本にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見た目では食べない方も多いため、盛り付けや切り方を工夫している。水分も好みを把握し色々な種類をそろえている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回訪問歯科が入っているため、口腔ケアの方法などもアドバイスして頂き行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけなどをおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、水分、運動を心がけているが、それでも便秘の場合は、医師の指示で下剤の使用もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	できるだけご本人の希望にそうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に昼寝をしたり、夜間なかなか眠れない方には日中の活動量を増やしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の薬を一覧表にしたり、追加や変更になった新しい薬については目的と副作用がわかるように掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般、歌、散歩はお好きな方が多く、日々の楽しみになっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方の協力で夕方、盆踊りに出掛けたりしている。事業所の庭でお天気のいい日はベンチに座ってお茶を飲んだりして気分転換をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の商店街で、買い物支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でご家族とお話したり、自由にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を変えたり、臭いには特に注意し、こまめな換気や消臭剤を使用し施設独特の臭いがしないように気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く置き、ゆったりとくつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具など持ち込んで頂き、できるだけ自宅に近い環境にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ、家庭的な環境を心がけ、場所や位置をなるべく覚えてもらうようにし、過剰な標識をつけないようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

バナナ園 武蔵小杉

作成日

平成28年9月12日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	事業所理念をしっかりと伝え、実践していく	ミーティングやケア会議での発信力を高める。	1年
2	18	利用者様中心の生活	利用者様が生き生きと暮らすグループホーム	意欲を引き出すような関わり。ニーズに合わせた支援。	1年
3	34	緊急時、事故発生時の対応	実践力を身につける	研修の開催	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。